

要旨

果樹農家で毎年大量に発生し、廃棄されがちな剪定枝を地域資源と捉え、新たな活用方法を探究した。回収や処理の課題を調査し、企業へのインタビューや協力を通して活用の可能性を検討。また、剪定枝から作られた布を使用してワークショップを実施し、楽しみながら学ぶ機会を創出するとともに、資源としての価値を明らかにした。

1. 課題設定の動機・背景・目的

山形県 ⇨ さくらんぼ生産量日本一(果樹王国)
 剪定作業で毎年 **約37,500t** もの剪定枝が発生
 ⇨ 多くが廃棄 ⇨ **×ごみ ◎地域資源** と捉えた
 燃焼処理により公害問題が多発している
 新たな活用方法を生み出すことで、**環境保全と農業の活性化**につなげたい

総務省「バイオマスタウン事業(実証実験)―木質バイオマスガス化発電システムを活用した剪定枝活用事業」https://www.soumu.go.jp/main_content/000039132.pdf (参照2026-3-6)より算出

2. 収集した情報・調査したこと・分析

地元の果樹農家さんにインタビュー
 現状を把握し、課題を発見するため
〈結果〉

- ・剪定枝は畑で焼却処理している
- ⇨ 量が多い / 手間がかかる / 使い道がない
- ・「活用できるなら使いたい」という声もあった
- 〈分析〉**
- ・活用法が知られていない
- ・活用法を周知することができれば、**サイクルが活性化し、循環型社会になるのではないか**

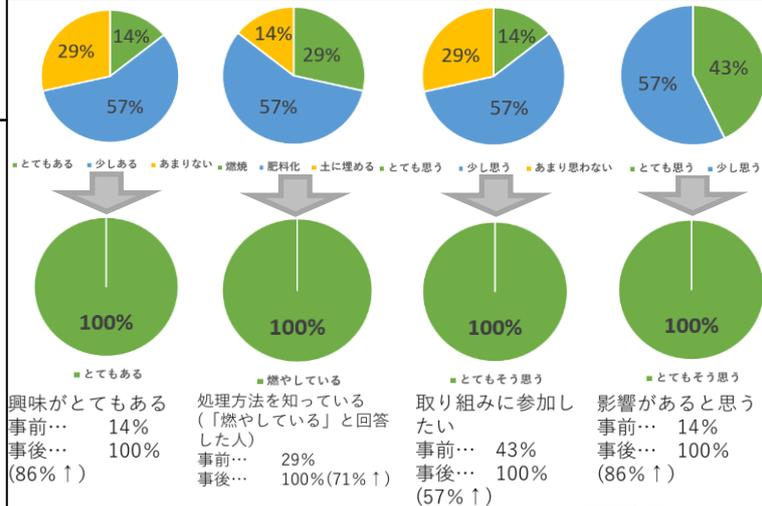
3. 活動したこと・アクション

- ① **地元の紡績・ニットメーカーさん**にインタビュー・見学の実施
 ⇨ 剪定枝を利用して布を製造・販売する会社
 商品は高く買う人が少ない
 ⇨ **×商品を広報 ◎サイクルを広報**
 サイクルを手がける地元の広告代理店を紹介
- ② **地元の広告代理店へ連絡**
 メールでのやり取りを通して活動の助言
 ⇨ ミサンガ作りを紹介していただくが・・・
 自分たちのオリジナルの取り組みをしたい
子どもと保護者を対象にしたオリジナルのワークショップの実施を通してサイクルの広報を計画
 ⇨ 地元の広告代理店さんを通じて布の提供
- ③ **地元小学校との協力**
 それぞれの出身小学校に依頼し宣伝用チラシを配布
 ⇨ 活動内容を広く発信
「剪定枝からできた布を使ったコースターづくり」
ワークショップを実施

4. 結果・考察

ワークショップ当日は、**11名**の小学4年生から中学2年生と保護者が参加
 前半は剪定枝の現状・問題や活用法をわかりやすく説明し、後半は剪定枝を利用して製造した布を用いて一緒にコースターを作成クイズの出題などの工夫をし、子どもと保護者が楽しみながら学べるようにした
〈アンケート結果から〉

開催前: 剪定枝への関心や理解が低い
 開催後: **興味や知識が大きく向上**
 楽しみながら学ぶことによる、**環境問題に対する意識の高まり**
 出身小学校からフルーツロスに関わる**講演の依頼→活動への期待**
 剪定枝は**教育的価値と商品化**の可能性を併せ持つ**地域資源**であると考えられた



5. まとめ・成果・今後の展望

地域と繋がりながら取り組んだ
 新たな価値を生み出せることを明確にした
 継続的な活動にするために・・・
 ⇨ 地域との協力体制を強化
 ⇨ 資源として扱うためのサイクルを整え・拡大させていきたい